（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称:株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(1)職務の理解			
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①多様なサービスと理解	2	2	0	講義内容 ・「介護」についての概念・考え方 ・介護保険サービスと介護保険外サービスについて
②介護職の仕事内容や働く現場の理解	4	4	0	講義内容 ・居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・居宅・施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ ・介護の職務の基本的理解とキャリアアップについて 居宅・施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容についてDVD資料の視聴し、講師による解説を行う。
（合計時間数）	6	6	0	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　『介護職員初任者研修課程テキスト』第１巻 『職務の理解』DVD

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数について
は別紙３に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(2)介護における尊厳の保持・自立支援			
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点を理解する			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①人権と尊厳を支える介護	4	1	3	通信学習 ・人権の尊厳の保持 ・QOL の考え方 ・個人の権利を守る制度の概要 （個人情報保護法・成年後見人制度・生活保護制度） 講義内容 ・介護を必要とするひとが有する権利、介護に関する基本的な視点（ICF、QOL、ノーマライゼーション） ・医療・福祉分野での人権について ・身体拘束・高齢者虐待について
②自立に向けた介護	3	1	2	通信学習 ・自立支援について ・介護予防 講義内容 ・自立支援を支えるための QOL の考え方 ・残存機能の活用と個別ケアの重要性 ・介護予防の考え方と重度化の防止
③人権啓発に係る基礎知識	2	2	0	講義内容 ・人権について ・人権への取組み ・身近な人権への気づき
（合計時間数）	9	4	5	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　　『介護職員初任者研修課程テキスト』第１巻

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(3)介護の基本			
指導目標	・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①介護職の役割・専門性と多職種との連携	2	1	1	通信学習 ・介護の専門性 ・求められる介護福祉士像・チームケアについて 講義内容 ・介護環境の特徴、地域包括ケアシステムの狙いと方向性 ・介護に関する職種と多職種連携・チームケアについて
②介護職の職業倫理	1	0.5	0.5	通信学習 ・行動規範について 講義内容 ・専門職としての倫理の意義 ・日本介護福祉士会倫理綱領について ・プライバシーの尊重と秘密保持義務について
③介護における安全の確保とリスクマネジメント	1.5	1	0.5	通信学習 ・介護労働における安全の確保 ・感染症の基礎知識・感染の原因と経路 講義内容 ・事故予防と事故に対する対応、リスクマネジメントの視点 ・安全対策と危険予知訓練
④介護職の安全	1.5	0.5	1	通信学習 ・介護職員のこころとからだの健康管理 講義内容 ・介護職員の健康管理の重要性 ・感染症の予防対策 ・腰痛予防の対策
（合計時間数）	6	3	3	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　　『介護職員初任者研修課程テキスト』第１巻

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(4)介護・福祉サービスの理解と医療の連携			
指導目標	介護保険制度や障害者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①介護保険制度	3	0.5	3.5	通信学習 ・介護保険制度創設の背景と目的 ・制度全体のしくみの基礎的理解 講義内容 ・制度全体の基礎的理解 ・介護サービスの分類と種類 ・ケアマネジメントの重要性・ケアプランに基づくケア
②医療との連携とリハビリテーション	3	0.5	1.5	通信学習 ・介護職と医行為 ・リハビリテーションについて 講義内容 ・介護職が行える医行為について ・医療と介護職の役割・連携について
③障がい者総合支援制度 およびその他の制度	3	0.5	2.5	通信学習 ・障がい者総合支援制度の基礎的理解 ・個人の権利を守る制度の概要 講義内容 ・障がいの概念と ICF・個別ケアの重要性 ・介護保険と障がい福祉サービスの「共生型サービス」
（合計時間数）	9	1.5	7.5	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　　『介護職員初任者研修課程テキスト』第１巻

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(5)介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき（とるべきでない）行動例を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①介護におけるコミュニケーション	3	2	2	通信学習 ・コミュニケーションの意義、目的、役割 ・コミュニケーションの技法 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの方法 講義内容 ・対人援助における個別援助技術の基本原則を学ぶ ・演習を通じて、実際のコミュニケーションの技法を学ぶ。聞く側・話す側を体験してもらい、実際にコミュニケーションを体験する。 演習内容 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの取り方をグループ単位で討議・フィードバックを行う。
②介護におけるチームのコミュニケーション	3	1	1	通信学習 ・介護に関する記録の意義と種類 講義内容 ・介護サービスにおける情報共有の重要性報告・連絡・相談の留意点 ・記録の書き方と留意点 ・コミュニケーションを促す環境
（合計時間数）	6	3	3	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　　『介護職員初任者研修課程テキスト』第２巻

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(6)老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	1.5	1.5	通信学習 ・老化の特徴とからだの状態の観察ポイント ・フレイル予防について 講義内容 ・老化の特徴・状態の観察ポイント ・講義・演習を通じ、実際に観察のポイントや注意点を個人ワークにてまとめた後、グループで討議する。
②高齢者と健康	3	1.5	1.5	通信学習 ・高齢者に多い疾患の基本的理解 ・老人病と成人病・生活習慣病 講義内容 ・高齢者に多い疾患と日常生活上の留意点 ・小さな変化に気付く視点 ・意識障害の確認の方法 ・嚥下障害による誤嚥性肺炎の危険性
（合計時間数）	6	3	3	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　　『介護職員初任者研修課程テキスト』第２巻

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(7)認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護するときの判断の基準となる原則を理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①認知症を取り巻く状況	1	0.5	0.5	通信学習 ・認知症ケアの視点 講義内容 ・認知症について学ぶことの重要性 ・認知症ケアの理念（パーソンセンタードケア） ・認知症ケアの視点（できることに着目する）
②医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	1	1	通信学習 ・認知症の基礎・原因疾患・治療方法 ・認知症による障害 講義内容 ・認知症の方の健康管理のポイント
③認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	1	1	通信学習 ・認知症の中核症状と周辺症状 ・認知症の方へのコミュニケーション 講義内容 ・認知症による生活障がいの事例 ・中核症状と周辺症状の関係性とケアの方法
④家族への支援	1	0.5	0.5	通信学習 ・レスパイトケア、家族の力の活かし方 講義内容 ・家族への支援（介護負担感の理解）、その方法についてグループで討議する。 ・サービスに入るに当たって、ご家族とのコミュニケーションの重要性
（合計時間数）	6	3	3	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　　『介護職員初任者研修課程テキスト』第２巻

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(8)障がいの理解			
指導目標	障害の概念と国際生活機能分類（ICF）、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①障がいの基礎的理解	0.5	0.5	0	講義内容 ・障がいの概念 ・ICFの考え方 ・障がい者福祉の基本理念
②障がいの医学的側面・生活障がい、心理・行動の特徴、関わり支援等の基礎的理解	2	0.5	1.5	通信学習 ・障がいの医学的側面の基礎知識 講義内容 ・精神障がい・発達障がいについて ・障がいの受容について ・知識を持った上でのケアの重要性
③家族との心理・かかわり支援の理解	0.5	0.5	0	通信学習 ・家族への支援方法 講義内容 ・家族の障がい受容 ・社会資源の活用
（合計時間数）	3	1.5	1.5	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　　『介護職員初任者研修課程テキスト』第２巻

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(9)こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、もてる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
Ⅰ.基本知識の学習 ①介護の基本的な考え方	2	1	1	通信学習 ・法的根拠に基づく介護・QOL の視点 講義内容 ・介護サービスの目的 ・理論に基づく介護・介護の専門性
Ⅰ.基本知識の学習 ②介護に関するこころのしくみの基礎的理解	3	2	1	通信学習 ・学習と記憶の基礎的理解・感情と知識の基礎的理解 講義内容 ・自己概念と老年期の生きがい ・老化や障がいを受け入れる課程（自己受容と社会受容） ・介護職としての受容段階での支援のポイント
Ⅰ.基本知識の学習 ③介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6	5	1	通信学習 ・人体の各部の名称と働きに関する基礎知識 講義内容 ・バイタルサインについて ・利用者の様子と普段の違いに気付く視点 ・ボディメカニクスについて ・高齢者の健康とは ・QOL とADL について
Ⅱ.生活支援技術の学習 ④生活と家事	2	1	1	通信学習 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援の方法 講義内容 ・家事と生活の理解 ・家事援助の基礎的理解 ・生活支援のポイント（食事・洗濯・清掃） ・居室環境の整備の重要性（ベッドメイキング）
Ⅱ.生活支援技術の学習 ⑤快適な住環境整備と介護	2	1	1	通信学習 ・快適な住環境に関する基礎知識 講義内容 ・高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具の活用・住宅各所の環境整備のポイント ・介護負担の軽減と事故防止・目的に合わせた住環境整備
Ⅱ.生活支援技術の学習				通信学習 ・身支度、洗面介助の留意点 講義内容

⑥整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	7	1	・身じたくの意義と介護の基本 ・衣服の着脱の基本的手順 ・整容の目的と種類 ・口腔ケアについて 演習内容 ・衣服の着脱の支援方法（座位・臥位での更衣）をペアになり行う。介助する側・される側を体験し、感想を話し合う。
Ⅱ.生活支援技術の学習 ⑦移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	7	1	通信学習 ・もっている力の活用と自立支援、体位変換の留意点 講義内容 ・移動・移乗に関する基礎知識 ・ICF の考え方と社会参加の支援 ・ボディメカニクスについて ・移動・移乗時におこる事故の原因・予防方法 ・移動・移乗時に使用する福祉用具と点検項目について 演習内容 ・杖・車椅子を使用した外出介助 ・ベッド上での体位変換・ベッドから車椅子への移乗方法介助する側・される側を体験し、感想を話し合う。
Ⅱ.生活支援技術の学習 ⑧食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	7	1	通信学習 ・食事の栄養素とその働き・疾患別の食事の工夫 講義内容 ・食事の意義と目的 ・食中毒・感染症予防のポイント ・食事と社会参加の関係性 ・食事介助の基本 演習内容 ・実際に食事介助をする・される側を体験 障がい・介護度の違いによって介助方法の違いを体験する。 （視覚障害・片麻痺・全介助・自立）
Ⅱ.生活支援技術の学習 ⑨入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	7	1	通信学習 ・入浴支援の基礎知識、視点 講義内容 ・入浴・清潔保持の意義と目的 ・入浴・清潔を保つための方法 ・楽しい入浴を阻害するこころとからだの要因 ・入浴介助の方法・入浴用具と整容用具の活用方法 演習内容 ・部分浴（手浴・足浴・清拭）の手順を学ぶ
Ⅱ.生活支援技術の学習 ⑩排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	8	7	1	通信学習 ・排泄介護の原則について 講義内容 ・排泄に関する基礎知識 ・排泄介護の基本視点（尊厳の保持と自立支援について） ・排泄環境の整備と排泄用具の活用方法 ・排泄を阻害するからだの要因（排尿・排便障害） 実習内容 ・排泄用具を使用した介助方法 ・ベッド状でのオムツ交換の方法（テープ式） ・教科書のワークに沿って事例検討をおこない、支援方法を考える。

Ⅱ.生活支援技術の学習 ⑪睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	6	5	1	通信学習 ・睡眠支援の援助の視点 講義内容 ・睡眠の種類と入眠儀式 ・睡眠環境の整備と福祉用具の活用 ・褥瘡の発生と予防について
Ⅱ.生活支援技術の学習 ⑫死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	3	2	1	通信学習 ・終末期の変化・特徴 講義内容 ・終末期介護に関する基礎知識 ・死が近づいた時の兆候と介護 ・ターミナルケアにおける介護職員の基本的態度 ・多職種間でのチームケア
Ⅲ.生活支援技術演習 ⑬介護課程の基礎的理解	6	5	0	講義内容 ・介護課程に基づく介護展開 ・介護課程の目的・意義・展開 ・介護課程とチームアプローチ グループワーク 教科書の事例に基づき、アセスメント・計画立案・実施・評価の作成を行い、介護課程の流れを理解する。
Ⅲ.生活支援技術演習 ⑭総合生活支援技術演習	6	6	0	講義内容 ・事例展開に関する実技演習 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習慣、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点を習得する。 ・レクリエーションの提供 レクリエーションの意義を学び、利用者の興味と現存能力に適したレクリエーションの選択・提供をおこなえるよう学ぶ。
（合計時間数）	75	63	12	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行　　『介護職員初任者研修課程テキスト』第 3 巻 【実習用具】 ベッド・サイドレール・介助バー・シーツ・車椅子 福祉用具カタログ・ベッド・シーツ・枕・タオルケット・ポータブルトイレ・衣服（かぶり・前開き）・歯ブラシ・コップ・ガーグルベース・ブラシ・鏡・アイマスク・ストロー・食器・お箸・フォーク・スプーン、足浴手浴用桶・タオル・清拭用ハンカチ・紙おむつ（テープ式・パンツ式）パット・布オムツ・杖

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を 0 にすることはできない。なお、通信時間数については別紙 3 に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

（別添２－２）

令和３年９月３日　現在

シラバス

指定番号:２６４
商号又は名称：株式会社東住吉介護センター

科目番号・科目名	(10)振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識を図る			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 （別紙でも可）
①振り返り	2	2	0	（講義内容） ・全体の振り返り ・介護職として働いていく上での基本の考え方をもう一度振り返る （自立支援・個別ケアの重要性・チームケア 等） （グループワーク） ・全課程で学んだことを踏まえ、今後の仕事にどのように活かしていきたいか・どのように利用者と接していきたいかを考え、発表する。
②就業への備えと研修終了後における実例	2	2	0	（講義内容） ・介護職としてのキャリアアップについて
（合計時間数）	4	4	0	

使用する機器・備品等	株式会社日本医療企画発行 『介護職員初任者研修課程テキスト』第 1.2.3 巻

※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
※ 各項目について、通学時間数を０にすることはできない。なお、通信時間数については別紙３に定める時間以内とする。
※ 時間配分の下限は、３０分単位とする。
※ 項目ごとに時間数を設定すること。
※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること